

歯科用小照射野 X 線 CT (3DX<sup>®</sup>) 画像診断：  
上顎左側大白歯部の根管観察に 3DX<sup>®</sup>が有用であった 1 例

内田 啓一<sup>1)</sup>, 黒岩 博子<sup>1)</sup>, 山田 博仁<sup>2)</sup>, 宇都野 創<sup>3)</sup>, 杉野 紀幸<sup>1)</sup>, 塩島 勝<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>松本歯科大学 歯科放射線学講座

<sup>2)</sup>松本歯科大学 歯科保存学第二講座

<sup>3)</sup>松本歯科大学 口腔解剖第一講座

Diagnostic imaging by limited cone beam CT (3DX<sup>®</sup>):

A case of 3DX<sup>®</sup> of useful for the observation of root canal at the maxillary left molar

KEIICHI UCHIDA<sup>1)</sup>, HIROKO KUROIWA<sup>1)</sup>, HIROHITO YAMADA<sup>2)</sup>,  
HAJIME UTSUNO<sup>3)</sup>, NORIYUKI SUGINO<sup>1)</sup> and MASARU SHIOJIMA<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Department of Oral Radiology, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

<sup>2)</sup>Department of Endodontics and Operative Dentistry, School of Dentistry,  
Matsumoto Dental University,

<sup>3)</sup>Department of Oral Anatomy I, School of Dentistry, Matsumoto Dental University

歯内治療において、根管形態や根管数を治療前に把握することは重要である。上下顎第一大臼歯や小臼歯では根管形態や根管数が様々であるので、根管処置前に十分にその根管形態や根管数を診断することは重要であり<sup>1)</sup>、治療の予後においても大きく影響を与える。とくに上顎第一大臼歯部における 4 根管の頻度は 50~60% であり、近心頬側根が 2 根管であることが多く<sup>2)</sup>、上下顎第一大臼歯や小臼歯の根管形態は口内法エックス X 線写真だけでは的確に把握することが困難である。今回われわれは、他疾患の検査目的にて 3DX<sup>®</sup>検査を行った際に、上顎左側第一、第二大臼歯部の 4 根管が認められた 1 例を経験したので画像と共に報告する。

患者は、16歳の女性。上顎左側臼歯部の違和感を自覚するも放置していた。その後、同部の違和感が持続するため歯科医院を受診し、上顎左側第

三大臼歯部の炎症が疑われたため、2007年9月25日精査依頼のため本学を紹介され受診した。受診時の歯科医院から持参した口内法エックス線写真では(写真1)、上顎左側第三大白歯の埋伏を認



写真1：上顎左側第三大白歯の埋伏を認め、上顎左側第一大臼歯部の歯根膜腔の拡大と近心側において歯槽骨吸収を認める。

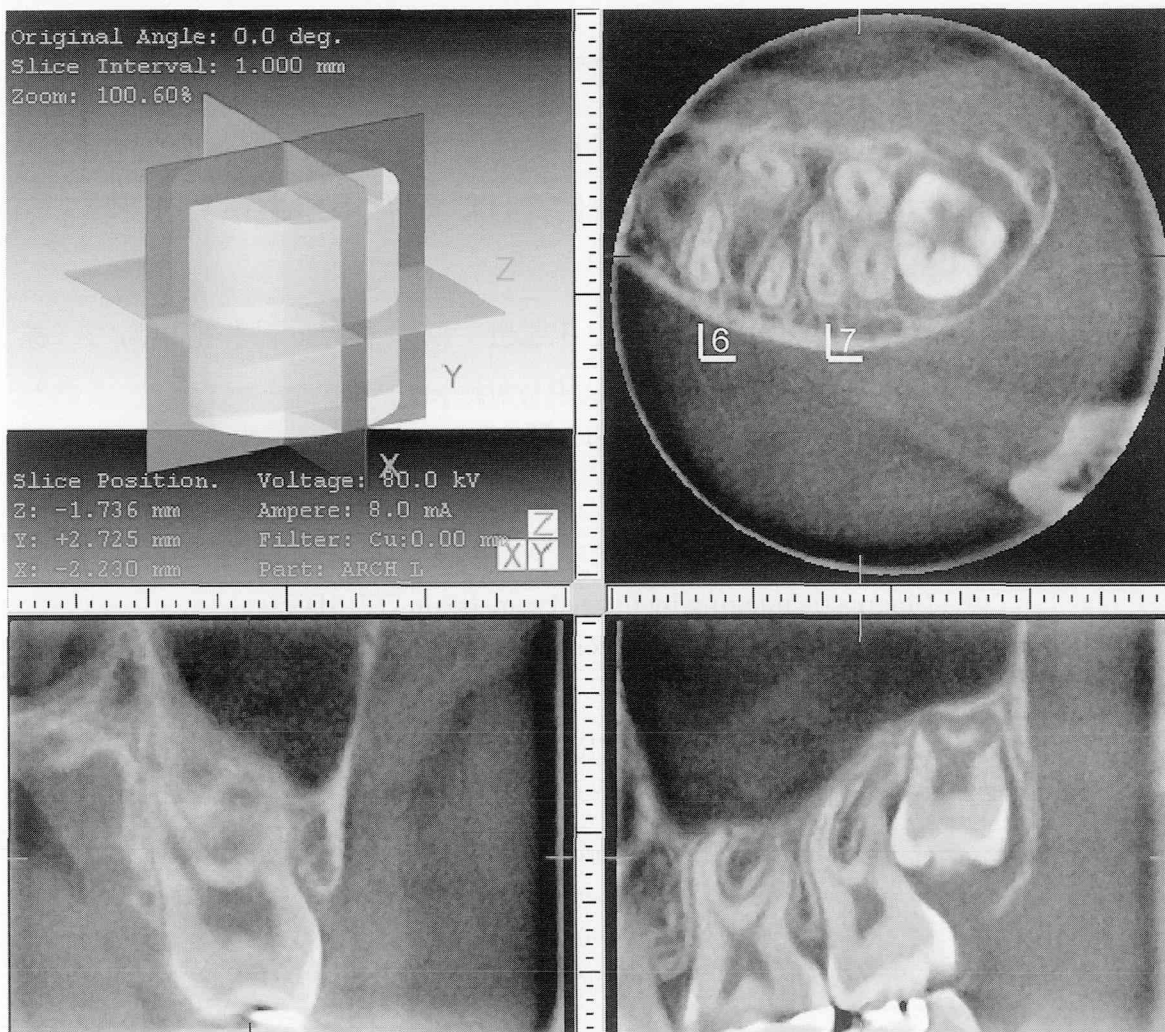


写真2: 上顎第三大白歯部は根未完成歯であり, 上顎洞との近接を認める。上顎左側第一, 二大白歯部の近心側に歯槽骨吸収を認める。また歯根は3根であり近心頬側根では, 歯根の中央部より完全分岐根管として認められる。

め, 上顎左側第一大臼歯部における歯根膜腔の拡大と近心側における歯槽骨吸収を認めた。上顎第三大白歯と上顎第一大臼歯部の状態を観察するために, 患者の同意を得て3DX<sup>®</sup>検査を行った。3DX<sup>®</sup>画像では(写真2), 上顎第三大白歯は歯根が未完成であり, 上顎洞との近接を認めた。上顎左側第一, 二大白歯部の近心側において歯槽骨吸収を認めた。また歯根は3根であり近心頬側根では, 歯根の中央部より完全分岐根管として認められた。

今回の症例では, 直接根管治療に結びつく症例ではなかったが, 上顎左側大白歯の根管形態を三次元的に診断することができ, 事前に担当医に情報を提供することができた。通常の臨床では, こうした複数根や過剰根管の疑われた場合は, 偏心投影法撮影を追加してその形態を診断するのが一

般的である<sup>1)</sup>。しかしながら, 根管形態を詳細に検討することが困難なことが多く, 術者への情報量も少ないことが多い。歯内治療においては, 歯根や根管の解剖学的形態を正確に認識する必要性があり, 的確な臨床診断と非破壊的に行える3DX<sup>®</sup>検査を組合せることにより, 歯内治療における問題点を解消するのに役立つことができると思われた。

#### 文 献

- 1) 河合泰輔, 浅海利恵子, 稲葉智弘, 熊澤康雄, 代居敬 (2007) 3根管を有する上顎両側第一小臼歯の1例. 日口診誌 20: 413-6.
- 2) 上条雍彦 (1986) 日本人永久歯解剖学, 第15版, 134, アナトーム社, 東京.